貿易史を通す（日宋貿易から高度経済成長期まで）

レベル：発展
藤井の日本史

日付＿＿＿＿＿＿　名前＿＿＿＿＿＿

解き方の手順　①その文が**いつの話か**を先に確かめる　②用語を□**で囲む**　③囲んだ語どうしの**つながり**（誰が・何に・誰へ）に矛盾がないかを見る

1　輸出入品から、どの貿易かを当てる

①〜⑥に当てはまる貿易を、語群から一つずつ選びなさい（語群には使わないものもあります）。

	日本からの輸出品	日本への輸入品	答え
①	金・硫黄	宋銭・陶磁器	
②	銅	木綿・大蔵経	
③	銀	生糸・鉄砲・火薬	
④	銅・俵物（いりこ・ふかひれ・ほしあわび）	金・銀	
⑤	生糸・綿糸	綿花・機械	
⑥	鉄鋼・船舶・自動車	石油	

〔語群〕 ア 日宋貿易　イ 日元貿易　ウ 日明貿易　エ 日朝貿易　オ 南蛮貿易　カ 朱印船貿易　キ 長崎貿易（田沼時代）　ク 幕末の貿易　ケ 明治期の貿易（1899年ごろ）　コ 高度経済成長期の貿易

2　誤っている文を一つ選ぶ

問1　中世の貿易について述べた文として誤っているものを、ア〜エから一つ選びなさい。

ア　日宋貿易は正式な国交のない私貿易で、平清盛は大輪田泊を修築した。
イ　日元貿易も正式な国交のない私貿易で、元からは銅銭や陶磁器、書籍がもたらされた。
ウ　日明貿易は、足利義持が朝貢形式を嫌って中断し、足利義教が再開した。
エ　寧波の乱ののち、堺商人と結んだ細川氏が日明貿易を独占した。

問2　近世の貿易について述べた文として誤っているものを、ア〜エから一つ選びなさい。

ア　南蛮貿易は、明が海禁政策をとるなか、ポルトガル人がマカオを拠点に行った中継貿易であった。
イ　南蛮貿易は、キリスト教の布教と結びついて行われた。
ウ　新井白石は海舶互市新例を出し、長崎での貿易額を制限して金銀の流出をおさえようとした。
エ　安政の五か国条約による貿易では、相手国の大部分がイギリスで、貿易港では長崎が全体の約80%を占めた。

3　古い順に並べる

次のア〜エを、古いものから順に並べなさい。

ア　寧波の乱が起こる。　イ　応永の外寇が起こる。　ウ　三浦の乱が起こる。
エ　日明貿易（勘合貿易）が始まる。

貿易史を通す（日宋貿易から高度経済成長期まで）

レベル：発展
藤井の日本史

下線の太字が、その文を切る（正誤を決める）ところです。

1　輸出入品から当てる

① ア（日宋貿易）　輸入の**宋銭**で決まります。

② エ（日朝貿易）　輸入の**木綿**（と大蔵経）が日朝貿易の目印です。

③ オ（南蛮貿易）　輸入の**鉄砲・火薬**で、16世紀の南蛮貿易と分かります。

④ キ（長崎貿易・田沼時代）　輸出の**俵物**が決め手。田沼意次は銅や俵物の輸出を増やし、金銀を輸入する側に回そうとしました。

⑤ ケ（明治期の貿易）　**綿花を輸入して綿糸を輸出**するのは、紡績業が育った産業革命期です。幕末は綿織物を輸入する側でした。

⑥ コ（高度経済成長期）　**鉄鋼・船舶・自動車**の輸出と、安価な石油の輸入です。

2　誤っている文を一つ選ぶ

問1　エ　寧波の乱（1523年）ののち日明貿易を独占したのは、**博多商人と結んだ大内氏**です。細川氏は堺商人と結んだ側。人物（家）と商人の組み合わせで切れます。

問2　エ　前半の「相手国の大部分がイギリス」は正しく、後半が誤り。貿易港で全体の約80%を占めたのは**横浜**です。文は最後まで読んでから判断します。

3　並べ替え

エ → イ → ウ → ア　日明貿易の開始（1404年）→ 応永の外寇（1419年）→ 三浦の乱（1510年）→ 寧波の乱（1523年）。日明貿易と日朝貿易の出来事がまざっているので、どちらの話かより年代で並べます。

> 貿易史は、品目をすべて覚えるより先に、その貿易だけに出てくる「決め手の1品」（宋銭・木綿・鉄砲・俵物・綿花など）を押さえます。生糸や銀のように何度も出てくる品目では、時代を決められません。